

1.気候変動問題全般（江守さんに対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・（会議中の質問）二酸化炭素は、植物の光合成には欠かせないものであり、生態系にとっても必要なものであるが、排出量をゼロにしてしまっ問題がないのか教えて欲しい。	【江守さん】（会議中の回答）人間が活動を始める前から大気中には二酸化炭素があり、それが現在、人間の影響により 1.5 倍ぐらいに増えている状態です。 今後、人間の活動によって排出される二酸化炭素の量を実質ゼロにしていきますが、大気中の二酸化炭素の量はゆっくり減っていく（もとに戻っていく）だけで、ゼロにはなりませんので、植物や生態系に対する影響を心配する必要はありません。
②	・ CO ₂ 削減目標は緑化推進とも関係しますか？効果は期待できるのでしょうか？	【江守さん】植林や森林管理による森林の CO ₂ 吸収促進は、大気中 CO ₂ 濃度を抑制する手段の一つです。ただし、外来種の単一種を大規模に植林するような方法だと生物多様性に悪影響がある、森林火災によって蓄えた炭素が放出する可能性がある、といった点に注意が必要です。
③	・（会議中の質問）日本の温室効果ガスの排出量は、2013 年以降徐々に減少しており、削減ペースだけで見ると目標に向けて順調に進んでいるように見えるという話であったが、その要因を教えて欲しい。	【江守さん】（会議中の回答）2013 年は、2011 年の東日本大震災の影響で原子力発電が止まっており、火力発電の割合が増えていた年でした。また、再生可能エネルギーの固定価格買取制度という再エネ普及策が始まったばかりの年でした。 そのため、2013 年以降、原子力発電の一部再稼働や太陽光発電の増加により、電力消費に伴う二酸化炭素の排出量が減っていきました。また、自動車の燃費向上や工業生産量の減少なども二酸化炭素の排出量が減った要因と考えられます。 しかし、この先、同じようなペースで減少していくとは限らず、予断を許さない状況であると理解しています。
④	・ 第 1 回会議講演資料 p.11 について、排出量が減っている理由の一つに経済がシュリンクしているとありましたが、近年のインバウンドによる経済成長を目指す方針は排出量減と両立可能でしょうか。または脱成長は不要でしょうか。また吸収量は漸減しているように見えますが、この流れは今後も変わらない見込みでしょうか。	【江守さん】経済活動と関係して排出量が減っているのは、主に鉄鋼業、化学工業などの工業生産量の減少によるものと理解しています。観光などのサービス業によって経済を活性化することは、相対的には排出量の増加につながりにくいと思います。 「脱成長」は、それが何を意味するかによりますが、特に富裕層の過剰消費を計画的に抑制すべきという議論には個人的に説得力を感じます。ただし、そのような制度を作ることは政治的なハードルが高いです。 日本の森林吸収量の漸減は人工林の高齢化によるものと説明されており、この傾向が続くのではないのでしょうか。

No.	意見・質問	回答
⑤	・（会議中の質問）気候変動は、既に臨界点を超えているという意見もあるが、実際のところを教えて欲しい。 ・（会議中の質問）日本や市民のレベルで頑張ろうとしても世界的なレベルで取り組みが進んでいかないのは政治の問題だと思うが、講師の考えを教えて欲しい。	【江守さん】（会議中の回答）産業革命前と比較し、気温の上昇を 1.5℃までに抑えるという目標がありますが、現在の気温はまだそこまで到達していません。しかし、気候変動は現在も進行しており、この先、我々が普通に頑張って取り組みを進めても、1.5℃は超えてしまうと考えられます。 だからと言って取り組みをあきらめるのではなく、もし 1.5℃を超えてしまったら 1.6℃で止まるように温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするための取り組みを続ける必要があります。これが、世界で共有されている基本的な考え方だと認識しています。 現在の世界の動きを見てみると、最も排出量が多い中国は、2060 年に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするという目標を掲げていて、太陽光発電や電気自動車などを急増させています。 次に排出量が多いアメリカを見てみると、先日大統領に就任したトランプ氏の考え方は気候変動政策にブレーキをかけるものです。しかし、民主党系の州では、この先も取り組みを強化していくと言っているため、アメリカ全体が取り組みをやめてしまうわけではありません。そのため、何とかトランプ氏の影響を最小限に抑えながら 4 年間のしのぐしかないと考えています。 また、その間、他の国はトランプ氏に同調しないように、引き続き排出量実質ゼロという目標に向けて協力していくことが重要と考えています。
⑥	・（会議中の質問）「人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」と言われている中で、一国のリーダーなどからもそれを疑う声が出てきてしまうという現状がある。どうしてこのような声が出てくるのか、どこに問題があるのかを教えて欲しい。	【江守さん】（会議中の回答）気候変動問題は、科学的な問題であるだけでなく、文化的な問題になっている場合もあります。 例えば、アメリカでは保守とリベラルの分断が進んでおり、気候変動問題は銃規制や妊娠中絶などと並ぶ一つのトピックスになっています。このようにして、科学的にどちらの主張が正しいかということを議論することができなくなっている現状があります。 このような背景から、保守系の一部の人たちから、気候変動は人間が原因のものではない、気候変動が進んでも影響は小さい、取り組みをしても効果は小さいというような主張が大きく拡散されており、日本でも何らかの動機でそのような主張を拡散する人がいて、インターネットなどで同調する人たちが出てくる、という構造があると考えられます。

2.家庭部門の取り組み全般（前さんに対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・（会議中の質問）世田谷区民にとって、どのような取り組みをするとどれだけの効果が得られるのかを整理したい。そのなかで、再エネ電力の普及、VtoH（電気自動車のバッテリーに貯めたエネルギーを家庭用電力として利用できるシステム）の普及、電気自動車の普及について、講師の考えを教えて欲しい。	【前さん】（会議中の回答）電気代とガス代を減らすのであれば、まず給湯を減らすと良いと思います。シャワーヘッドを節湯型に交換することはすぐできますし、ガス給湯器が故障しそうになったら、早めにエコジョーズ（排気熱を再利用することで、少ないエネルギーでお湯を沸かすことができる給湯器）やエコキュート（ヒートポンプ技術によって大気中の熱を利用してお湯を沸かすことができる給湯器）に換えるということが大事だと思います。また、日本人は浴槽入浴が当たり前になっていますが、海外ではバスタブをなくす運動すらあります。このように、リラクゼーションとして使っている湯消費を見直す視点も必要かも知れません。 また、照明や冷蔵庫など 1 日中電気を使っているものを見直すと効果的に節電できます。照明の LED 化は必須です。 冷暖房に関しては、室内の環境が夏や冬に不健康な状態になっていますので、省エネの視点だけでなく健康で快適に過ごすという視点で断熱の取り組みをすると良いと思います。 その他、生活するうえで、エネルギー消費をゼロにすることはできませんので、太陽光発電設備は是非設置して頂きたいと思います。 ここまでは、是非取り組んで欲しいことで、ここからはどこまで取り組むかについてお話しします。 蓄電池は、東京都から補助金が出ているので、太陽光発電設備を設置している人、これから設置する人は、このタイミングで設置すると良いと思います。 電気自動車を持っている人、これから購入する人は、200V の充電器を設置すると良いと思います。V2H は、対応している車種が少ないこと、電力を車から家に出力する際のロスが大きいこと、高額であることを踏まえると、無理して今設置する必要はないかも知れません。 【主催者】（会議中の回答）どのような取り組みをするとどれだけの効果が得られるのかという点については、参考資料 5「国内 52 都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢」に掲載されていますので、是非ご覧ください。

No.	意見・質問	回答
②	・（会議中の質問）マンションで一人暮らしをしている 20 代の区民にできる安くて簡単な取り組みを教えて欲しい。	【前さん】（会議中の回答）マンションは、戸建てと比べてできることは少ないですが、再エネ電力への切替えはすぐにできますので、是非進めると良いと思います。 賃貸住宅などで本格的な内窓を設置できない場合は、窓にポリカーボネートの板を設置したり、カーテンを厚手のものに取り換えたり、カーテンの隙間をなくしたりすると良いと思います。夏は、遮熱型のカーテンも有効です。 マンションでは、給湯機を換えるのは難しいかも知れませんが、可能であればエコジョーズに換えると良いと思います。 その他、照明を LED に換えるなど、コツコツと取り組みを進めると良いと思います。
③	・ 例えば 2030 年の CO ₂ 削減目標を達成するために、4 人家族の一戸建てで達成する必要のある具体的取組みの程度を知りたい。	【前さん】高断熱高気密＋高効率設備＋太陽光発電は必須だと思います。戸建住宅は外皮面積が大きいので、外皮の断熱気密は特に重要です。一方で、スペースに余裕があるのでエコキュートなどの設置も容易で、屋根に太陽光発電も載せられるので、対策しやすい面もあるのです。
④	・ ヨーロッパでの対策がうまくいっているというお話がありましたが、どの国のどういう対策が有効か知りたいです。	【前さん】国によって、気候やエネルギー事情・住まい方が違うので、一概にどの国を見習うべきかは難しいです。冬寒冷なドイツなどヨーロッパでは断熱気密の技術が非常に進歩する一方で、夏暑い日本はエアコンなどの設備や太陽光発電に力を入れてきました。今は、それぞれの得意を交換している状況です。「日本ダメ論」「日本スゴイ論」の両極端に触れるのではなく、世界のいいところを学びながら、日本に暮らす人に合ったよい対策を見つけることが大事だと思います。
⑤	・ 産業構造の転換・技術革新に対する国・財界の開発投資の姿勢。投資規模等	【前さん】脱炭素をマジメにやると、現状の化石燃料を大量に消費する既存の大量消費の産業・社会構造は大転換を迫られるのは間違いありません。人と地球に悪い産業にお金が回らないようにする金融の動きも活発化していましたが、そうした動きへの既得権の反発としてトランプ大統領の再登板などが出ています。しかし、脱炭素は長期的に人と地球にやさしい形に社会を変えるものなので、長期では進んでいくと考えます。現在の暮らしが本当に幸せなのか、よく見直す必要がありそうです。

3.太陽光発電とその他再生可能エネルギー（前さんに対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・ 公団住宅賃貸住人です。公共住宅などの太陽光発電への取り組みはどんな具合でしょうか？また、他の高層ビルなども。	【前さん】非常に遅れていると思います。古い建物は図面がない場合も多く、構造的に大丈夫かどうかの確認が難しいことも障害です。また共同住宅では太陽光発電の電気を住民の人が使うには、配電や課金の仕組みを工夫する必要があります。最近では太陽光発電と蓄電池で電気代家賃込みを実現している高性能賃貸も登場しています。
②	・ 「ペロブスカイトの将来展望について」 今回の会議では、太陽光発電が、中心となっていますが、積水化学がペロブスカイトを2027年度に量産化する予定です。当初は業務用中心となるでしょうが、早晚コストダウンを図り家庭用にも展開されるのではと、期待しております。もしその様になるのであれば、今太陽光発電を選ぶより、もう少し待ってペロブスカイトにした方が良いのではと考えますが、先生のご意見は如何でしょうか？	【前さん】ペロブスカイトが早く市販化されることを期待しますが、現状においては効率低下や耐久性など解決すべき問題が残っていると理解しています。既存のシリコン系は40年保証のメーカーもあるほど、長い時間をかけて耐久性が高められています。屋根置きについては、ペロブスカイトを待つことなく既存のシリコン系を付けて早く発電をはじめた方がよいと考えます。ペロブスカイトは曲面にも設置できるので、屋根置きとは別の設置方式に適應されることが期待できます。
③	・ 築30年の二階建（持家）ですが太陽光関係設備を設置した場合、将来建て替えした場合に太陽光関係設備の再利用は（経過年数との関係で）可能でしょうか？（目安でOK）	【前さん】既存のシリコン系パネルは非常に耐久性がありますので、後での再利用も十分に可能です。実際に、野立ての太陽光パネルは普通に再利用されています。直流を交流にかえるパワーコンは、寿命が15年程度なので交換が必要です。
④	・ 太陽光パネルの製造過程における人権問題（例：ウイグル地域など）について、どのようにお考えでしょうか。	【前さん】非常に大事な問題で、国や太陽光発電協会も対策を進めており、製品の製造で人権問題が起きていないかの確認が求められるようになってきています。ただし、同様の問題は食料・衣料・家電など全ての輸入品と同様に対策されるべきであり、太陽光発電の時だけ声高に議論されることには疑問を感じています。もちろん、人権や環境問題について意識を共有する友好国や自国への生産シフトができれば最善です。

No.	意見・質問	回答
⑤	・ 太陽光パネルが何十年後に今のプラゴミのようにゴミ問題に発展しませんか？エコ・リサイクルできますか？	【前さん】太陽光パネルはほとんどがガラス・アルミ・樹脂といった一般素材でつくられており、シリコンや希少金属はわずかです。値段が非常に安くなってきていることから、特殊な素材利用を抑えているのは明らかです。リユースやリサイクルの利用も整えられており、年1億トンある通常の産業廃棄物と同様に適切に処理できると考えます。
⑥	・ 太陽光以外の効率の良い発電方法があれば教えてほしいです。	【前さん】生活に必要な1日10kWhというかなりの量の電気を効率的に作るのは、簡単なことではありません。ガスや石油で作れば普通の電気よりはるかに低効率で高額になりますし、風力は大きいほど効率がよいので住宅には適しません。浅学ながら自分は心当たりがありません。あればぜひ教えていただければと思います。
⑦	・ 昼夜の電力使用料の差を知りたいです。昼間の使用が低いと太陽光の必要性に疑問が生じます。CO ₂ 削減は大きな問題と捉えています。そこで、やはり蓄電池の推進が必要と感じますが、蓄電池の安価にして行く動きはありますか？	【前さん】原子力発電が停止する中、以前のように夜間が極端に安い料金メニューはなくなっています。昼間が安いプランは太陽光の電気が余りがちな九州電力などは提供していますが、東京電力は提供していません。一部の新電力が提供している市場価格連動型プランであれば、昼間にある程度安い電気を買うこともできます。 蓄電池のセル価格はEVの発展もあって世界的には急低下していますが、日本では若干低下する程度かもしれません。補助金があるとメーカーは下げる努力を怠りませんから。また蓄電池は蓄放電の際に1～2割のロスがあります。貯めるなら太陽光の電気にするべきでしょう。

4.その他家庭部門の取り組み（前さんに対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・ （会議中の質問）内窓の設置方法やメリットについて教えて欲しい。	【前さん】（会議中の回答）マンションでは、外窓は共用部扱いになるため勝手に交換することはできませんが、分譲であれば内窓は入居者の判断で取り付けることができます。 断熱性の他にも、静穏性の面でメリットが大きいためお勧めです。 また、改修のタイミングで外壁に断熱材を貼ったり、窓の断熱化をしたりすると住民にとってメリットが大きいので、是非、東京都にサポートしてもらいたいと考えています。

No.	意見・質問	回答
②	・ 窓断熱で、ポリカをはめ込む場合の熱損失は53%減で、内窓設置は67%減とのことですが、両者の熱損失の差がさほど無い様に感じるのですがこの14%の差は大きいものでしょうか？室内の温度にどの程度差がでるものでしょうか？また、設置にかかる費用は両者で大きく違うので差が無ければDIYも選択肢となるようです。 ・ 他にも断熱カーテンや断熱シート、断熱フィルムを貼るなどの様々な選択肢がありますが、こういった手法の熱損失の値や効果の違いなどはあるのでしょうか？ すぐには踏み出せない方や賃貸に住んでる方などがおり、このあたりの見解をご教示いただければと思います。	【前さん】断熱で大事なのは窓との間に密閉した空気層をつくることです。断熱シートやフィルムは密閉空気層を作れないので効果は小さいです。カーテンも隙間があると空気が動いてしまうので効果は限られます。ポリカ板を適切にはめ込めるのであれば効果は期待できます。実際、ポリカを使ったDIYキットも市販化されています。 ただ、見た目や耐久性には疑問もあります。自分もマンションに内窓を付けていますが、見た目や眺望も問題ないですし、寒さや暑さへの効果、なにより外の音を防ぐ遮音性に大変満足しています。
③	・ （会議中の質問）おすすめの節湯型シャワーヘッドを教えて欲しい。	【前さん】（会議中の回答）節湯性能の高いものは、少ない水を勢いよくあてるようにできています。しかし、長く使用していると痛く感じる場合もあるため、自分に合ったものを探してもらうのが良いと思います。 2割程度節湯できるタイプだと、それほど使用感は変わらないと思います。このあたりから試して頂き、問題なければ3～4割程度節湯できるタイプに換えてみると良いと思います。
④	・ まだ使える家電を廃棄することよりも、省エネ家電に買い換えることのメリットの方が大きいのでしょうか？	【前さん】ものによると思います。年間を通して長時間使うもの、例えば冷蔵庫などは10年以上前のものであれば買い替えをおすすめします。急に壊れるとかなり不便な思いをしますし。たまにしか使わないものはムリに買い替える必要はないでしょう。

5.取り組みを浸透させるための方策（前さんに対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・ 家庭部門の脱炭素はどうあるべきかの結論は出ているのに、ここまで取り組みが遅れてしまっているのは、推進する政策の方向性がずれているのか、どこに原因があるのでしょうか？ ・ 市民になかなか浸透しない理由は何だと思えますか？（対策への理解・対策への賛成など）	【前さん】国や自治体の問題もありますが、なにより「国民のニーズ」がないのが原因でしょう。日本では自分は慎ましく暮らしていると思っている人が多いので、ことさら省エネとか脱炭素とかいっても響かないようです。ただし一度、高断熱な家に住んで快適さを知ってしまうと、もう昔の家にはみんな戻れません。ニーズがないのではなく、今の暮らしの問題を知らないのが問題のようです。 自分は住宅の省エネを25年以上研究していますが、今は「日本に暮らす誰もが健康快適で電気代も安心な暮らし」を目標にしています。まずは十分な質の暮らしを目標にする、次にそれを少ない負担で実現する方法・仕組みを考えるのが大切でしょう。
②	・ 太陽光パネルに対し、エアコン等、今一番必要である高齢者への説明、理解していただくのは認知の面もありなかなか難しいとは思いますがどうしていくかおしえていただきたいと思います。	【前さん】人によって、問題意識や感性は違うので、同じ方法でみんなが納得するというのは難しいでしょう。それぞれの人が気にしている問題点、冬の寒さや夏の暑さ・電気代・環境意識に応じて、解決策を提案していくしかないでしょう。マジメに考えれば、解決方法はだいたい同じになります。特に、お年寄りには温熱感覚が鈍っていて温度を感じにくい場合もあるので要注意です。「ヒートショックや熱中症で倒れられるとみんなが困るのよ」みたいな言い方もあるかもしれませんね。後、改修した家が後で高く売れる、ということも大事です。住みつぶすのではなく次世代に引き継げるリフォームができるといいですね。
③	・ 対策実施方法、助成金申請方法、コスパタイプなどの具体事例の情報をご共有いただけますと幸いです。アクションのイメージが湧き行動に移りやすくなるかと思えます	【前さん】助成金などは毎年、国や自治体が多様なものを出すので、そちらは行政に相談されると良いと思います。実行できそうな対策はだいたいお伝えしたのですが、もう少し考えてみます。

6.世田谷区の取り組み（主催者に対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・ 世田谷区区長さんを始め、職員さんたちのミッション遂行率はどういう状況でしょうか	【主催者】具体的な数字は把握していませんが、区民の皆様同様に、職員に対しても脱炭素化に向けた取り組み周知や啓発を図っております。

No.	意見・質問	回答
②	・ 太陽光発電の設置率がかなり低いようですが、今後目標に届かないようであれば区としてどのようにするのでしょうか うまくいかなくても突き進むのでしょうか（既存住宅の義務化など）	【主催者】2050 年の脱炭素社会の実現に向けて、区民の皆さまのアイデアも引き出しながら、様々な取り組みを検討し、試行錯誤を重ねながら目標達成に向けて取り組んでいきます。
③	・ うまくいかないミッションがあったとします その代替案はあるのでしょうか	

7.会議の内容（事務局に対する意見・質問）

No.	意見・質問	回答
①	・ 議論の時間がもう少しあると有益かと思えます。とてもいい取り組みだと思いました！ ・ 大変勉強になります。もっと議論の時間があってもよいなと感じました。 運営の皆様ありがとうございました。 ・ グループで話し合う時間がもう少しあった方がよい。 ・ グループワークの時間が短く感じました 他のグループの結果共有などもっと時間を割いてもいいのではないのでしょうか ・ 3 時間半ある会議でしたが、時間に追われる状況だったので、具体的な議論→政策に落としこめるような時間が次回からもっとあるといいなと思いました、おもしろかったです！ ・ 制限時間があるとはいえ、こま切れすぎて、みなさんの意見をしっかりきけなかったのは残念（特に若い子の発言をひき出せてあげられず、申し訳ないし残念だった。また、もともとテーマが決まっているなら、話はそこからはじめても良かったのでは？ ・ 細かくタイトなスケジュールが組まれていたので、時間調整のためかテンポが速くてついていけない部分がありました。ゆとりある内容だと嬉しいです。 ・ 内容を詰め込みすぎると感じた。 ・ 勉強不足でなかなかついていけませんが、理解が追いつくようにがんばりますので、引き続きよろしくお願いいたします。	【事務局】第 1 回会議は、じっくり考える時間やグループで話し合う時間が短くなり申し訳ありませんでした。 皆さまのご意見を踏まえ、第 2 回～第 3 回会議は、①専門家の話を聞いて情報を得る、②グループワークのなかで様々な取り組みを検討する、③全体で結果を共有する、ということ、ゆとりをもって進められるように時間配分を検討していきます。 特に第 2 回会議については、身近な暮らしの脱炭素化に対する取り組みを検討する重要な回ですので、このグループワークの時間を、第 1 回会議のグループワークと比較して約 2 倍となるように設定しました。

No.	意見・質問	回答
②	・ グループ分けは予め、名札に明記して頂きたかった。勘違いして別のグループに途中まで参加していたメンバーがいた。	【事務局】グループ名が分かりづらく申し訳ありませんでした。 ご意見を踏まえ、第 2 回～第 3 回会議では、受付に会場のグループ配置図を掲示して案内することにしました。また、あらかじめ名札をグループにおいて置くことで、自分が座るグループが分かるようにしました。
③	・ グループワーク時、付箋に書く筆記具が太すぎて字が汚くなり読みにくくなるので細字タイプの筆記具がほしい。	【事務局】基本的には、少し離れたところからも字が読めるように、第 1 回会議と同じマーカーを使っていただくと良いと思いますが、書きづらい方に配慮して、各グループに細字タイプのものも数本ずつ配付することにしました。
④	・ この会議の最終日に 太陽光発電を設置 再生可能エネルギーに断熱気密など住宅改修 日常生活において脱炭素行動を したい したくない すでにしている 現時点ではできない（保留） というような感じで 4 つのミッションについてアンケートを取ることは可能でしょうか 「その理由」を書いてもらおうと参考になるのではないかと思います	【事務局】ご提案いただきありがとうございます。4 つのミッションに対する参加者自身の取り組みの方向性をお聞きするのは、良い考えだと思いますので、第 3 回会議の際のアンケートに設問を用意する方向で検討します。

【講義に対する感想】

- ・ 地球温暖化のしくみやシミュレーションによる 75 年後の気温の変化がよくわかりました。今の赤ちゃんやこれから生まれてくる人々が深刻な環境で生きて行く事を強いられることについて、心苦しく感じます。まずは地域の組織に参加することから、取り組むことができると感じたので、自分のできることから始めて、周囲の人に危機感を伝えていきたいと思います。
- ・ 大変勉強になりました。自信がインフルエンサーとなり、再エネを広め、カーボンニュートラルに貢献したいと考えるようになりました。また、産学官の連携が大切だと考え、自身が勤務する業界をを通して何か貢献できないか考えたいです。
- ・ 家庭で取り組める脱炭素活動が分かりやすかったです。再エネ電力切り替えだけでなく、個人でも事前調査など準備しておけば、エコ活動が可能であると感じました。自宅の給湯器はあと数年で交換予定のため、エコキュート導入を検討することや、冷蔵庫が 20 年以上使用している旧式なタイプなので、省エネタイプに入れ替えが必要という事を考えられるようになりました。
- ・ わかりやすく講義していただきありがとうございました
- ・ 素晴らしい内容で大変勉強になりました。
- ・ 詳しい説明ありがとうございます。

【その他の意見・感想など】

- ・ 班に分かれて少人数だったので意見も言いやすかったです 普段考えたことも無い問題に触れられて有意義な時間でした
- ・ 本日参加する事で気にしなかった部分の温暖化や脱炭素計画を知る事ができグループで話し合い色々な考えを聞くこともでき勉強になりました。
- ・ 気候に対応する必要性をとて強く感じました。そこで太陽光など身近で出来ることを知りました。しかし、対策は大きな問題でひとりひとりの前向きな行動と地域の働き掛けなどに多くの仕組みが必要と感じ、良い前進に繋がって欲しいと思います。
- ・ 打つ手はあまりないのかと思っていたが、ここまで CO₂ 排出は減らすことができおり、世田谷区は各家庭の太陽光発電の導入が鍵で、それが実現すれば、我慢ばかり強いられる生活ではないこと知り、明るい気持ちになった。こうした良い情報も発信していけば、区民のモチベーションもあがるのではないかな。
- ・ 区長が紹介されていた世田谷区教育大綱のことは全く知りませんでした。脱炭素の取り組みにも同じことが言えるかもしれませんが、正しい真っ当なことをいかに広く伝えていくか、過激ではない適切な情報発信の大切さ、難しさを感じました。
- ・ 特に問題なしスムーズでした。
- ・ 貴重な機会に参加できて有意義です。次回もよろしくおねがいいたします。
- ・ 上手く運営されたていると思います。ご苦労さまです。